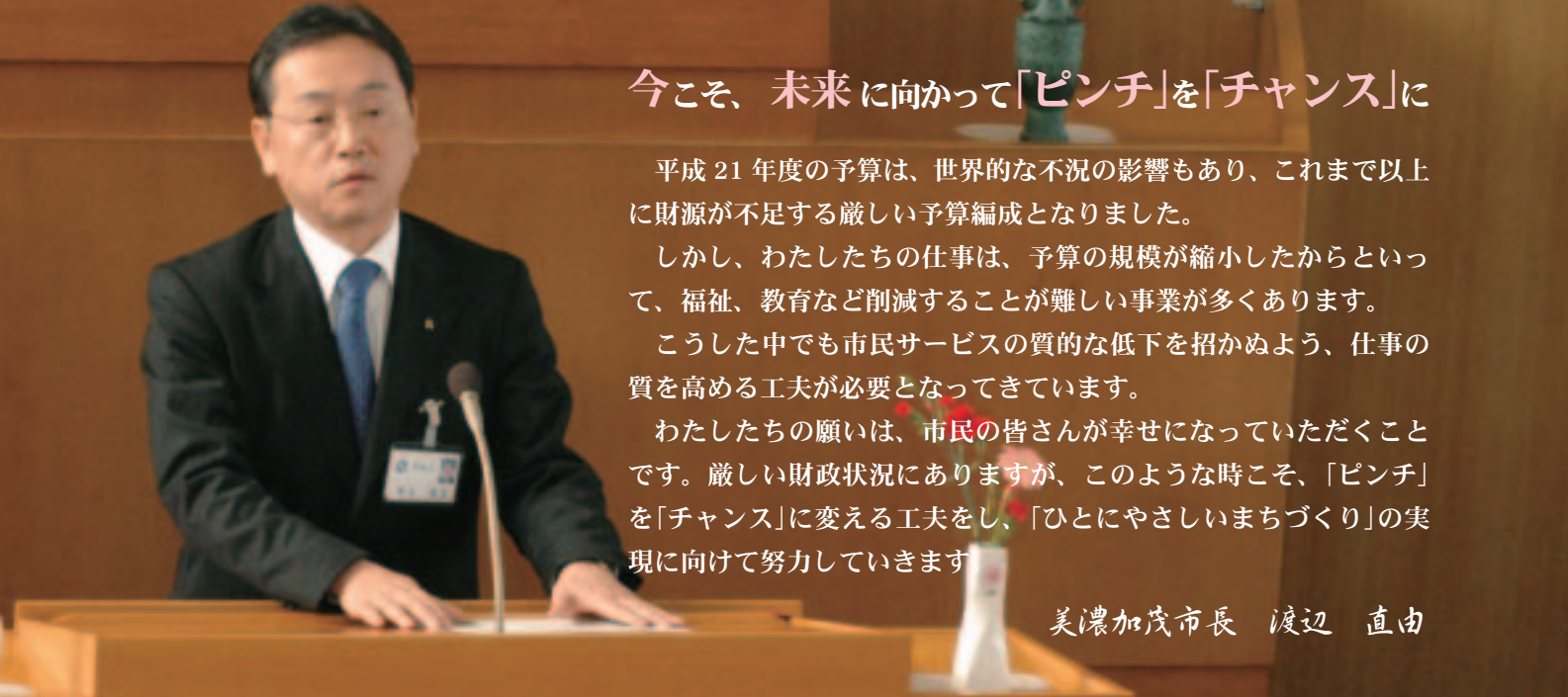




今こそ、未来に向かって「ピンチ」を「チャンス」に

平成 21 年度の予算は、世界的な不況の影響もあり、これまで以上に財源が不足する厳しい予算編成となりました。

しかし、わたしたちの仕事は、予算の規模が縮小したからといって、福祉、教育など削減することが難しい事業が多くあります。

こうした中でも市民サービスの質的な低下を招かぬよう、仕事の質を高める工夫が必要となってきています。

わたしたちの願いは、市民の皆さんが幸せになっていただくことです。厳しい財政状況にありますが、このような時こそ、「ピンチ」を「チャンス」に変える工夫をし、「ひとにやさしいまちづくり」の実現に向けて努力していきます。

美濃加茂市長 渡辺 直由

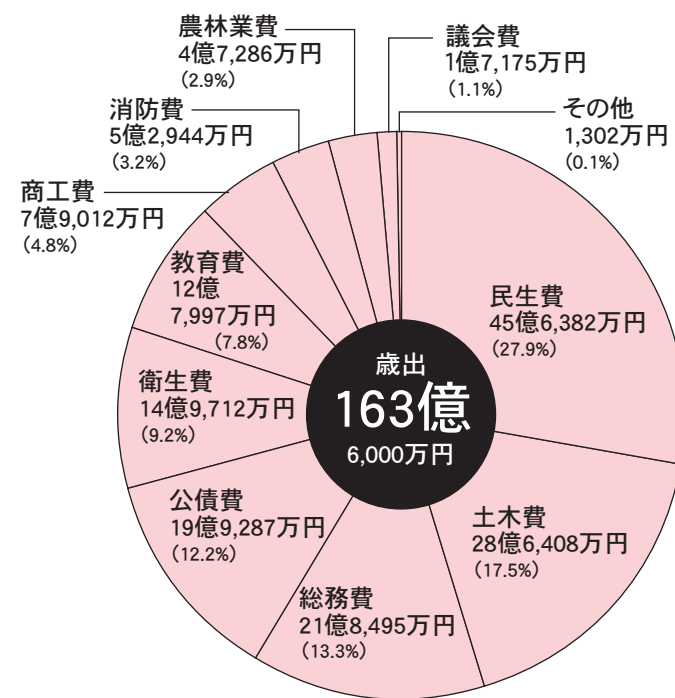
一般会計 ▶▶ 歳出（目的別）

H21

歳出 福祉、子育てに重点化

歳出では、厳しい財政状況の中、歳出全般にわたる事業の徹底した見直しを行い、福祉、子育てに重点を置くなど、ソフト・ハード事業を織り交ぜながら、効果的な予算配分となるよう配慮しました。

特に目的別予算の状況では、民生費が国民健康保険会計への繰出金などの増加により、前年度と比べて 4.8% 増の 45 億 6,382 万円となり、歳出予算全体の 27.9% を占めています。また、教育費では、学校給食センター整備事業が完了したことにより前年度と比べて 31.7% 減の 12 億 7,997 万円となりました。



一般会計 ▶▶ 歳入

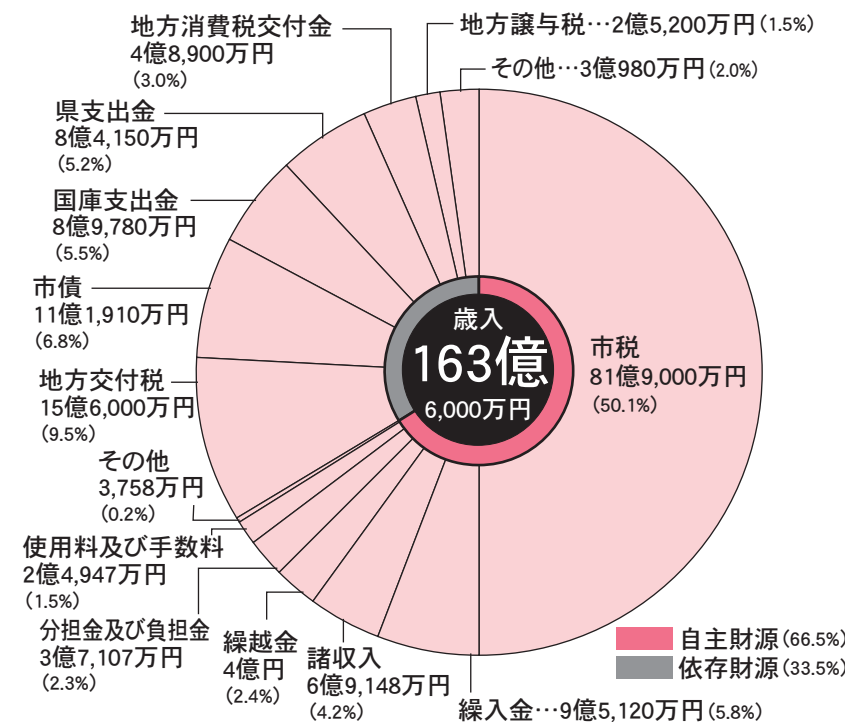
H21

歳入 市の自主財源は約 7 割

市税をはじめ地方交付税や国庫支出金、県支出金など、柱となる収入について、制度改正などに配慮し適正に計上しました。

特に世界経済の後退は、当市の財政運営にも大きな影響を与え、自主財源である市税は、法人市民税が前年度と比べて 30.9% 減と大幅に減少するなど、市税全体では同 4.8% 減の 81 億 9,000 万円となりました。

このような状況の中、21 年度予算では、財源不足を補うため、積立基金 9 億 5,120 万円を取り崩して対応し、歳入全体では、約 7 割 (66.5%) が市の自主財源となりました。



用語解説

- 【歳入】
- ▲自主財源：市税や施設使用料など、市が自主的に収入できるお金
- ▲依存財源：国や県からの補助金など、市が自主的に収入できないお金
- ▲市税：市民税や固定資産税、たばこ税など
- ▲繰入金：積立基金(貯金)を取り崩したお金
- ▲諸収入：預金利子やその他の収入
- ▲繰越金：前年度から繰り越されたお金
- ▲分担金及び負担金：福祉事業や土木事業などに対する負担金
- ▲使用料及び手数料：公民館などの使用料や住民票などの発行手数料
- ▲地方交付税：市の財政状況に応じて国から交付されるお金
- ▲市債：事業を行うために借りるお金
- ▲国庫支出金：市が行う事業に対する国からの負担金や補助金
- ▲県支出金：市が行う事業に対する県からの負担金や補助金
- 【歳出】
- ▲地方消費税交付金：地方消費税の一部を財源として、県が人口と事業者数の割合に応じて割り振りし、市に交付するお金
- ▲地方譲与税：国税として徴収され、その後、地方に譲与されるお金
- ▲民生費：各福祉事業を行うためのお金
- ▲土木費：道路や住宅などの工事にお金
- ▲総務費：まちづくりや一般事務などにお金
- ▲公債費：借入金の返済や利息の支払いのためのお金
- ▲衛生費：市民の健康管理やごみ処理にお金
- ▲教育費：学校教育や社会教育などにお金
- ▲商工費：観光や商工業の振興にお金
- ▲消防費：消防設備や消防団運営にお金
- ▲農林業費：農業・林業の振興にお金
- ▲議会費：市議会の運営を行うためのお金